SERVICE CLUB TO THE YMCA
名古屋 プラザ〈月 報〉
THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGOYA PLAZA

西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2012年6月号

「主題」

国際会長　　：「とにかくやろう－成せばなる」
アジア地域会長　：「とにかくやろう－成せばなる」
西日本区理事　　：「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」
中部部長　　：「まず一歩　楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」
プラザクラブ会長：「ワイズなワイズになろう」
【評価・計画　今年度の目標はどこまでやれたか、楽しいクラブ活動や充実した奉仕活動が行えたか、会員増強は図れたか、評価と反省をしっかり次に繋げよう。】

６月例会および今後の予定案内

【６月第１例会】
日時：６月１４日(木)・１８：３０－
場所：ケンボー
内容：クラブ創立記念祝会
【６月第２例会】
日時：６月２８日(木)・１８：４５－
場所：名古屋ＹＭＣＡ会議室
内容：次月例会の打ち合わせ
出席義務者：役員（大島・櫛田・後藤）
７月担当者（後藤・島崎）
８月担当者（大島・鈴木）
【今後の予定】
1. 西日本区大会
日時：６月９日(土)-１０(日)・開会１１：３０
場所：滋賀県立文化産業交流会館
2. 老人ホームへの音楽慰問
日時：６月２４日(日)・小澤宅１１：３０集合
場所：アミーユ星崎　開演：１３：００－
3. ７月第１例会(新年度クラブ総会)
日時：７月１２日(木)・１８：４５－
場所：名古屋ＹＭＣＡ会議室
4. 7 月第 2 例会
日時：７月２６日(木)・１８：４５－
場所：名古屋 YMCA 会議室
5. 第１６回中部部会
日時：８月２６日(日)・１３：３０－
場所：名鉄ニューグランドホテル
会費：１０,０００円/人

５月例会およびその他活動報告　（敬称略）

役　員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
会長	大島　孝三郎	○	○	○	○	
	小澤　幸男	○				
書記	櫛田　守隆		○			
会計	後藤　猛	○	○			
直前会長	島崎　正剛					
	鈴木　誉三	○	○		○	
副会長	高田　廣	○	○			
	常盤　眞理子					
連絡主事	万福寺　昭美	○	○			

課外活動	
	①東日本被災地支援活動報告会 5/9
	②国際協力街頭募金 5/27
	③
	④
	⑤

出席率・%		77.8
1. ニコボックス	17000	32300
2. オークション		
当月合計／累計	17000	32300

７月号ブリテンの寄稿者は小澤さんです。
400 字詰原稿用紙 4-5 枚を目安にお願いします。
E メール　moritaka_kushida@ybb.ne.jp

８月号・鈴木／９月号・島崎／１０月号・高田

5 月第 1 例会報告

日時:5 月 10 日(木) ・18:45-20:30
場所:名古屋 YMCA 会議室
1. 西日本区大会参加者乗り合わせ
　櫛田車-島崎・後藤・高田
　大島車-鈴木
　出発時間・場所等は当事者同士打ち合わせのこと。
2. クラブ役員引継ぎ
　(1)会長-大島･高田ほぼ終了。
　(2)会計-後藤・常盤の引継ぎに会計監査鈴木、大島立ち会う予定。日時未定。
3. 国際協力街頭募金
　5 月 27 日(日)開催予定の上記募金活動に、鈴木・大島参加
4. 卓話「仏教の過去と未来」
　講師:想念寺住職　渡辺観永氏

仏教では物事を始めるときに様々な作法があります。その中の一つに鐘を 3 回たたくというものがあります。いつもお伝えしているのは、「始まりの合図 : 今私はここにいます」「心を静止する : 今まで私は歩いてきました」だから「呼吸を整える : これから私は歩いて行きます」です。

仏教というと、お葬式をイメージしてしまう方が圧倒的に多いと思いますが、「死」すらも大いなる「生」の一つの区切りでしかありません。つねに転変しつづけている「無常」にたいしての心構えを提示する、生きるための教えです。この生きるための教えは、お釈迦様といわれるゴータマ･シッダルタという 2600 年ほど前の方によって説かれました。一説には 2300 年前ではないかもいわれています。正直よくわかりません。当時のインド大陸の方々は伝統的に年数に対してあまり興味を示さなかったようです。このゴータマはシャーキャー族の王子として生まれました。お父さんの名前はスッドーダナと伝えられます。漢訳すると浄飯王です。ここからゴータマの一族、「釈迦」族はご飯を主食とする一族であったことがわかります。小麦文化と米文化の端境だったのかもしれません。仏教の開祖をお釈迦様や釈尊というのは、一族の名前から付いています。私たちは釈迦牟尼世尊(しゃかむにせそん)とお呼び申します。釈迦は一族の名前。牟尼は聖人の意味。世尊はこの現世に於いて最も貴い存在を意味します。日本では一般的にお釈迦様といわれますね。

このお釈迦様のうまれた時代は群雄割拠の時代で、釈迦族の国は大きな大国に挟まれた小国に過ぎませんでした。のちにマガダ国によって滅ぼされます。お釈迦様は 2 回までは、マガダ国の王にお止めになったそうですが、説得によっても「釈迦」族の反乱は止まず、3 回目に滅ぼされたそうです。そこから「仏の顔も三度まで」ということわざが生まれています。ここは優しさを意味するのではなく、努力を意味するものと感じています。

お釈迦様はいつ生まれたのでしょうか。日本では 4 月 8 日といわれています。これも旧暦ですから、新暦でいうと 5 月。ちょうど今頃ですね。暑くも寒くもない穏やかな季節です。さすがお釈迦様といいたいところですが、その誕生はお釈迦様個人にとっては大変な悲しみをいただくものでした。お母様マーヤ夫人との永遠の別れです。お釈迦様はマーヤ夫人の左脇から生まれたとされます。これは貴い方の誕生譚であると見ることができますが、私には異常分娩を指摘しているとおもいます。マーヤ-夫人は出産後 7 日目に、その妹パジャパティーに息子を託して亡くなられるそうです。お釈迦様はパジャパティーお母様に育まれて育ちました。しかしそのような愛情に包まれて育つお釈迦様は、頑健なお体をお持ちではなかったようです。このような人間を生み育てるために二人の女性がその人生を捧げるということ、自分の人生もなんのためにあるのかもわからない、という悩みをお持ちになられるのは自然の成り行きであったかもしれません。その中で「四門出遊」の出来事がおこったといわれています。

ある日東の門をでると、病人に出会い、南の門には老人、西門には死人に出会い、人生の苦悩「老病死」を再確認されたそうです。北の門を出たときに、その人生を生きていこうという決意をもった人、修行者に出会い、自らもそのような生き方を望まれるようになったといいます。后との間に一子をもうけたお釈迦様は、城を出ます。その時 29 歳だったそうです。(お釈迦様の出家については異論もあります。その中の一つに、自分の一族を守るために出家せざるをえなかったというものもあります)

80 歳になるまで、お釈迦様は各地を遊行し、多くの人たちとふれあっていきました。お釈迦様と出会ったことで、生きる意味、生きる喜びを取り戻していった人々は、お釈迦様にどうすればあなたのようにこの苦悩の多い人生を生きられるのかと尋ねました。その内容は、各人の境遇・状態によって異なっており、在世時には記録されていませんでした。一般には、八万四千の法門といわれるほどです。その中に作法として禅があり、経典として法華経があり、絶対的救済思想と

して阿弥陀仏がいらっしゃいます。違いは時に矛盾さえ起こしかねないものですが、目的は一つです。「よくいきる」こと。 お釈迦様がお解きになられた形は多くありますが、今日は「布施」をお話しします。

「布施」というと、お坊さんにお渡しするお礼（お金）とどうしても考えてしまいますね。実は「布施」は、インドの言葉で「キャーシャ」の意訳ととらえられます。音訳としてはその形状から「袈裟」に、また行動の内容から「喜捨」に分かれます。「キャーシャ」そのものは「汚れたもの」であり、「汚れたもの」を纏ったある女性が「生きる意味」を教えていただいたお釈迦様に対する感謝の気持ちとして、身に纏っていた腰巻きの一番きれいな部分を引き裂いてお釈迦様に捧げたことに由来します。現在でも、モンゴルやチベットなどでは、貴い方に白い布を捧げるのが礼儀になっています。しかしこの女性が着ていた布は決して美しいものではなかったそうです。「袈裟」を翻って「糞掃衣ふんぞうえ」といいます。しかしそれを纏うものは、その尊さを知らなければなりません。その「布施」の尊さは、三つもしくは五つに区分されます。1 財施　2 法施　3 和顔施（わがんせ　眼施）4 言辞施（げんじせ口施）そして 5 無畏施です。畏れや苦しみや恐怖心をとり除くことです。僧侶が纏う「袈裟」は、常にその心で動くことを意識させられます。人のために生きることは、自己犠牲ではなく、自らの命を高めることを常に教えられるのです。そのことをよく示している経典が「般若心経」です。

このお経は、日本人には非常になじみがあります。写経をするよというと、「般若心経」ですね。このお経は、インドのお経を唐の時代の玄奘三蔵法師が中国語に翻訳されたものです。内容は、観音様がお釈迦様の弟子舎利佛に語りかける形式です。内容はずばり、苦しみは存在しないのではないかというものです。様々な解釈がございます。そのなかでも最後に、とても大切な言葉だとして、次の文章があげられます。

「羯諦　羯諦　波羅羯諦　波羅僧羯諦　菩提薩婆訶」意味はそれほど難しいものではありません。「いこういこう　きれいな世界へいこう　きれいな世界へ一緒にいこう　あなたが振り返るまでよびかけます　ああ！」二人の対話ですが、呼びかけられた人は、ただ「ああ！」としかいいません。人が本当にうれしいとき、このような感興の言葉しか言えなくなるのではないでしょうか。誰かと知り合うことで、わかる喜び。それがこの短い文章に隠されています。

1896 年、お釈迦様が生まれたであろうとされるルンビニーが明確に位置づけられました。お釈迦様を慕う後のアショーカ王の作った碑文が発見されたことがその決め手になりました。しかしいまだに滅ぼされた「釈迦」族の都城跡は明確に見つかっていません。すべては消え去ったままです。しかし、しっかりと残っているものが 2600 年の年月、空間を超えていただいています。「よくいきること」それは自らの人生をむさぼって過ごすのではなく、人と共に歩んでいくことを覚悟し、あるときは導かれ、あるときは手を引っ張って進む道をあゆむことなのです。

（寄稿：渡辺観永氏）

5 月第２例会報告

日時:5 月 24 日(木)・18:45-19:45
場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・大島

(1)国際協力街頭募金

日時:5 月 27 日(日) 13:30
場所:名駅ナナちゃん人形の下
どうして今、東日本ではなくアフガンなのか?

今から 11 年前の 2001 年からアフガニスタンでは戦争が始まり、たくさんの人が困っていました。そこでアフガニスタンのとなりの国、パキスタンに避難した人がたくさんいます。しかし、パキスタンでの生活はとても大変でした。学校に行けず、ゴミ拾いをして生活する子どもがいること、学校がなくて勉強ができないこと、お医者さんがいないこと･･･

困っているお友だちのために YMCA では、パキスタンのラホールという町に小学校を建てました。その学校に通うお友だちに勉強道具を届け、美味しい給食を食べられるように名古屋のみんなで力を合わせましょう。(国際協力キャンペーンチラシより)

参加:大島･鈴木
原稿、写真:鈴木さん担当、締め切りは 5 月 29 日

(2)役員引継ぎ

新会長の　1. 主題　2. 年間計画　3. 新役員　は確定、6 月第 2 例会で発表する。

2. ブリテン担当から・櫛田

(1)過去のブリテン保管

OB の阿部氏から 1992 年 7 月号-1997 年 9 月号のブリテンをいただきました。これを機会にクラブ創立以来のブリテンを揃えることにご協力願います。欠落月は 1987 年-1992 年、2000 年-2001 年が主です。もし、会員･OB のみなさんのところにあれば、櫛田まで送ってください。

(2)ブリテン掲載の写真募集

先月号でもお願いしましたが、写真を送ってください。メールの添付原稿に写真を添えていただいても結構です。

3. YMCA 連絡事項

東日本震災被害地に対する世間の関心が薄くなるに従い、支援募金も少なくなりました。YMCA として電気、文具などの節約で捻出していますが、微々たるものです。今後はイベントを3月に1回ほど開催して、

支援金募集を考えています。まずは、5 月 27 日、午後 6 時半より「Y を愉しむ会」を開催いたします。都合の悪い方は、次回、次々回の催し物にお出掛けいただき、支援募金にご協力ください。

東日本被災地支援活動報告会

名古屋 YMCA のリーダー5 人の東日本被災地支援活動の報告会が、6 月 9 日 YMCA 活動室であり、ワイズメンバー、リーダーたち 30 人が集まった。

5 人のリーダーは 3 月 21 日から 4 日間、仙台市山元町のイチゴ農園で小石や不要物を拾う地道な作業を行い、「小さな作業だけど、大切な仕事です」と農園の方に感謝されたこと、最終日は屈託のない子どもたちと触れあい、少々戸惑ったことなど、熱く語った。

(大島　孝三郎)

聖書の言葉

【彼らに起こったことは、「犬は自分の吐いた物に戻る」とか、「豚は身を洗って、また泥の中に転がる」とかいう、ことわざどおりです。(ペトロの手紙第 2 2.22)】

【2006 年 10 月号の「聖書に由来する語句・慣用句・諺」に「豚に真珠」の表題でマタイによる福音書 7 章 6 節の「聖なる物を犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれらを足で踏みつけ、向き直ってあなた方に噛み付いてくるであろう」を引用して、現代の解釈では「客観的にどんな価値のあるものでも、そのことの分からない人にとってはなんの役にも立たないことのたとえ＝「猫に小判」と書いた。】

【ドイツに「蛙を金の椅子に座らせても、また水溜まりに跳んでゆく」ということわざがあり、住み慣れたところが一番良い、との意味らしい。上記聖句の最後、「ことわざどおりです」とは、当時ユダヤで日常的に使われていたのであろう。原義は『義の道を心得て後、聖なる戒めに背く者がいる』だが、現在ではドイツの蛙のことわざと同じ意味に用いられる。
(www.shikoda.orq/proverb101.htm)】

【聖書に登場する犬と豚は、蛇とともに嫌われている動物である。ユダヤ教に由来するらしいが、現在は?と興味がわいた。「イスラエル　犬」で検索すると面白い記事に当たった。『2011 年 6 月、エルサレムの裁判所に 1 匹の野良犬が紛れ込み、公判を邪魔した罪で裁判官らから、子どもたちの投石による死刑を求刑された。犬は逃げて無事だったが、残酷な判決を下した裁判官は、動物介護活動家から訴えられた。』と漫画みたいな話である。現在、770 万人のイスラエル国は、ユダヤ人が 75%、アラブ系の人たちが 20%を占め、彼ら全てが「犬は不浄」とするユダヤ教、イスラム教の敬虔な信者ではない。1948 年、建国とともに世界に散らばっていた、ユダヤ人入植者が持ち込んだ「犬を飼う」文化が根付いた。とはいえ、エルサレムの街を犬連れで歩くのは、憚られるらしい、犬好きには窮屈な国である。因みに、仏教の動物に対する扱いは?　親鸞は「一切の有情はみな持って世々生々(せせしょうじょう)の父母兄弟なり／そもそも、あらゆるいのちのあるものは、くり返しくり返し生まれ変わり、生き変わりするなかで、すべてつながっていくのだ。だからいのちあるもののぜんぶが父母であり、肉親、兄弟姉妹であり、生きているものすべてが家族である。」と説く。(五木寛之　私訳歎異抄　東京書籍　より)】

春の街頭募金

日本のＹＭＣＡがアフガン難民支援の為にパキスタン・ラホールに開設した小学校への支援金を集める目的で、５月２７日（日）に金山・栄・名駅前の３箇所で春の街頭募金活動が行われました。

プラザクラブの受け持ちは名駅前で大島会長と鈴木の２人が参加、今回は子供の参加が１０人と多く、引率してきたスタッフ・リーダーが５人、計１７人でリーダー達の掛け声に合わせ道行く人達に募金への協力お願いしました。

日曜日で天気も良く人通りも多かった上に、子供達が元気よく声を出してくれたおかげで、今回は多くの人達が募金に協力してくれました。子供達が外国の小学校の募金を集める為、人前で声を出しお願いをし、協力していただいた方に「ありがとうございました」声を出す募金活動を体験することは、子供が成長する為に良い経験になると思います。

(鈴木　誉三　撮影：大島　孝三郎)